

相模原市・相模女子大学 相模大野駅前通（コリドー街）でにぎわい創出の官学連携事業を実施 11/21（木）～24（日） 生活デザイン学科学生がベンチ等を企画・制作 コリドー街を居心地のよい空間に

相模女子大学・相模女子大学短期大学部（所在地：神奈川県相模原市南区、学長：田畑雅英、以下「相模女子大学」）は、2024年11月21日（木）から11月24日（日）に、相模原市南区役所と連携し、相模大野駅前通（以下「コリドー街」）でにぎわい創出のための官学連携事業を実施しますので、お知らせいたします。この取り組みでは、本学生活デザイン学科の3年生及び4年生が企画・制作したベンチなどを設置し、コリドー街に「居心地のよい空間」を創出します。期間中は近隣住民や利用者にアンケートを行い、効果検証を行う予定です。



机に白紙の模造紙とペンを配置し、コリドー街の通行人に「相模大野への思い」を自由に書いてもらうしかけ【街の落書き帳】



コリドー街が時間帯によって歩行者天国であることを示すオブジェ【ホコテン】の設置イメージ



学生が設置物を制作している様子
難しい制作工程は桑原教授も一緒に入り、学生にアドバイス

相模大野駅は1日約13万人が利用するターミナル駅であり、商業施設や中央公園を有する、南区の中心的エリアです。相模原市は、この相模大野駅周辺をより魅力あるエリアにするため、市民と連携したワークショップを開催するなど、相模大野のにぎわいづくりに取り組んでいます。

市によると相模大野駅に通じるコリドー街の歩行者数は、旧伊勢丹相模原店の撤退やコロナ禍の影響で、2013年の約3万人をピークに2020年は約1万人と、7年間で1/3まで減少しています。そこで、相模原市南区役所と相模女子大学が連携し、本学生活デザイン学科の学生が企画・制作したベンチなどを設置し、コリドー街を「居心地のよい空間」として演出する官学連携事業を行うことになりました。この取り組みは、生活デザイン学科の授業「建築デザインⅢ」及び「プロダクトデザインⅡ」（担当：生活デザイン学科 教授・桑原茂、准教授・柳邊匡史）の共通課題として行われ、3年生及び4年生18人が参加しています。

学生たちはこの課題に取り組むため、コリドー街でフィールドワークを行い、にぎわい創出に関わる課題を整理しました。コリドー街は10時から22時まで歩行者専用（自転車含む）となりますが、「通行人はアーケード下の歩行者用通路を歩いており、コリドー街が歩行可能であることが知られていないことや、『そこに居ていい』と思える場所がコリドー街には少なく、通行人の滞在時間が短い」といった課題が浮かび上がってきました。

このフィールドワークで整理した課題をもとに、学生たちはコリドー街が「そこに居ていい」と感じられる空間となるような設えを、自らデザイン・制作しました。具体的には、「コリドー街が『歩行者天国』であることが一目でわかるオブジェ」「日当たりのよい場所に移動できるベンチ」「廃棄された椅子を再利用したベンチ」「ピクニックが楽しめるスペース」「住民の意見を集約できるテーブル」「商店街の店舗に関する本棚」「津久井産の間伐材を活用した椅子」「チョーク等で描いた横断歩道や道路標識」です。これらのベンチや設置物は、毎日撤去し、翌日再配置します。期間中は、近隣住民やコリドー街利用者を対象にアンケートを実施し、この連携事業の効果を検証します。ぜひ、この取り組みについて取材いただき、行政と女子大学が連携した相模大野の街づくりの事例として、広く知っていただける機会をいただければ幸いです。

【相模大野駅前通（コリドー街）における「にぎわい創出」に向けた取り組みについて】

事業名称：つながる ひろがる みんなのコリドー

実施日時：2024年11月21日（木）～11月24日（日） 各日とも11時30分から19時ごろまで

※ベンチなどの設置物は、各日とも19時ごろには撤去し、翌日再配置を行います。

※荒天中止。天候の状況により、実施時間が変更になる場合があります。

配置するベンチ等：本プレスリリースの2枚目をご参照ください。

担当：相模原市 南区役所地域振興課、相模女子大学 学芸学部 生活デザイン学科

【本件に関するお問い合わせ先】

相模女子大学 広報事務局 米澤智子（ワンパーパス株式会社内）

〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2丁目1番1号

TEL: 080-5083-6834 / e-mail: t-yonezawa@onepurpose-pr.com

学園キャラクター
さがっば・ジョー



設置するベンチなどの詳細

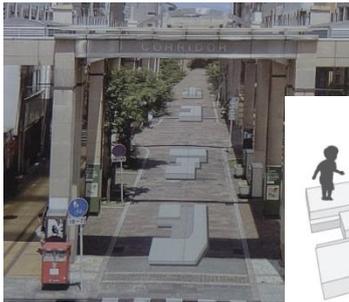
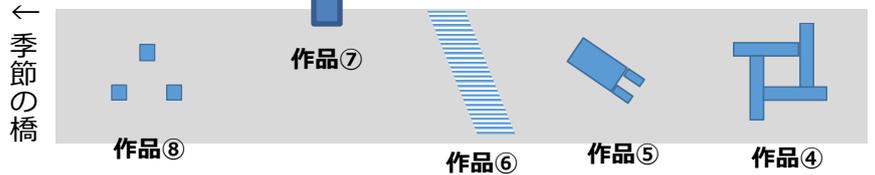
→ 相模大野駅



エリア①



エリア②



作品①【ホコテン】

コリドー街が時間帯によって歩行者専用（自転車含む）であることを示すオブジェ。オブジェは自由自在に動かすことができ、子どもたちの遊び場や休息の場にもなる。



作品②【picnic seat】

歩行者専用時間中、発案者の学生がコリドー街でピクニックシートを敷けたところ「車にひかれるから危ないよ」と注意を受け、コリドー街が歩行者専用であることが知られていないことから企画。芝生のような柔らかい素材を使用し、コリドー街に「居続けたくなる」空間を演出。



作品③【街の落書き帳】

長方形の机に白紙の模造紙とペンを配置し、通行人に「相模大野への思い」を自由に書いてもらう仕掛けをつくる。自分たちの町について考えることが、よりよい町づくりの行動へつながることを狙う。



作品④【STORY to BENCH】

コリドー街にも石の椅子があるものの、発案者の学生は「冷たくて座り続けたいと思わなかった」ことから木材ベンチを考案。廃棄された椅子を活用することで、その椅子をかつて使っていた人のstoryも感じてもらうことが狙い。



作品⑤【植物を動物に】

コリドー街の一部に、日当たりがよくなく枯れてしまった木があったことから「日のあたる場所へ移動可能な木」を発案。ベンチ下部は車輪になっており、植物にも人間にも快適な環境になるように、日当たりがよいところに移動することができる。



作品⑥【「横断歩道」ってなんだろう?】

学生が、昼間なのに誰も歩いていない道を見て、横断歩道や標識が機能しているのか疑問に感じたことが発案のきっかけ。横断歩道や道路標識を、チョーク等で描き、コリドー街が時間帯によって歩行者専用（自転車含む）であることを示す。



作品⑦【Book nest (本の巣)】

コリドー街のアーケードの柱に、鳥の巣を模した本棚を設置する。商店街にある店に関する本を配架し、本を通じた店と通行人との交流を促す。今回は学生が選んだ不動産関係の本・健康に関する本・子供向け書籍などを配架予定。



作品⑧【南区と緑区をつなぐ】

相模原市の約6割は森林で、その大部分は緑区に集中し、都市化している南区でそのことを知る機会は少ない。本作品は津久井産の間伐材の丸太をそのまま活用し、森林の維持には適切な間伐が必要であることや相模原市の地域資源である森林について知ってもらうきっかけとする。

※内容については関係機関と協議中であり、併せて制作を行っています。このため、実施時には内容、仕様等が変更になる場合があります。

【相模女子大学 学芸学部 生活デザイン学科とは】

生活デザイン学科は、「建築」「ファッション」「プロダクト」「ビジュアル」の4つのデザイン領域(8分野)を自由に組み合わせて学ぶことができ、社会から求められる「総合的なデザイン力」を養う学科です。指定された科目の単位の修得により、一級建築士やインテリアプランナーの受験資格を得ることができます。卒業生は設計デザイナー、プロダクトデザイナーなど、専門知識を生かした業種で活躍しています。



詳しくはこちら

【本件に関するお問い合わせ先】

相模女子大学 広報事務局 米澤智子 (ワンパーパス株式会社内)

〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2丁目1番1号

TEL: 080-5083-6834 / e-mail: t-yonezawa@onepurpose-pr.com

学園キャラクター
さがっば・ジョー

